

# 議会運営委員会 行政視察報告

議会運営委員長 平松 洋一

【視察日程】令和6年11月11日（月）～12日（火）

【視察委員】平松洋一委員長、小柳聡副委員長、小野清一郎委員、荒井宏幸委員、伊藤健太郎委員、土田真清委員、小野照子委員、倉茂政樹委員、武田勝利委員、志賀泰雄委員、内山幸紀委員、宇野耕哉委員、竹内功委員、中山均委員

【視察地】横浜市、神奈川県横須賀市

【調査事項】

○横浜市

- ・ 請願、陳情の取扱いについて
- ・ 委員会等のインターネット中継について
- ・ 議場音声表示システムについて

○神奈川県横須賀市

- ・ 議会改革（横須賀市議会実行計画「未来への羅針盤」）について
- ・ 関東学院大学との包括的パートナーシップについて

○横浜市

## 1 視察概要

（1）請願、陳情の事務処理について（請願・陳情書の近年の受理件数）

陳情は、請願と比べ、紹介議員、憲法上の権利などの要件や法的性格を異にしているが、審査上では請願と同様の取扱いとなっている。陳情は請願・陳情件数の8割を占め、大半が行政への要望的な陳情となっており、その多くが市長要望と重複し、審査に要する時間も長くなっている状況にあった。

委員会審査の効率化を図る観点から、提出された陳情のうち、議会の機関意思たる意見書の提出等を求めるものに限り委員会へ付託して審査を行うこととし、それ以外については、議長は委員会への付託を省略し行政当局へ回答を求め、その内容を陳情者に通知する取扱いへと変更した。そして、委員会への付託が省略された陳情については一般質問での質問機会を確保し、常任委員会等における発言にあたっては、委員間のバランスを配慮して効率的に行うべきとの意見が大勢であった。一方、少数意見として、現行通りの審査によるべきとの意見もあった。また、平成9年3月に議長の諮問機関として設置された議会改善検討懇話会において議論が行われ、その報告書を受けて、平成10年2月9日の市会運営委員会において現行の陳情審査の方法を決定した。

（2）請願、陳情の届出のオンライン化について

地方自治法の一部改正を踏まえ、議会における手続（請願・陳情書の提出、意見書の国等への提出、政務活動費収支報告書の提出）のオンライン化を進めることで検討が始まった。

### (3) 委員会等のインターネット中継について（導入時期・経過・経費等について）

平成17年に横浜市会の在り方調査会において、インターネット中継の実施方針が決まった。

#### ・録画映像の配信における背景や考え方、事務処理について

平成26年2月14日の市会運営委員会において、市民の利便性向上のため、他都市の状況に鑑み、録画映像の配信期間を4年間から12年間に変更することが決まった。録画映像配信までの流れとしては、会議終了後、委託事業者の中継サイトに表示する事項等を連絡し、委託事業者が休憩時間のカット等の編集や中継サイトに表示する事項を反映し、議会事務局で内容を確認後、原則として会議日から2営業日後までに公開している。ただし、会議録の修正等が発生する場合は、公開が繰り延べとなる。

#### ・複数の常任委員会、特別委員会の同時生中継に対する議会事務局の体制及び留意事項について

複数のカメラやテロップを、状況に応じて操作している本会議や予算決算特別委員会と違い、常任・特別委員会はカメラの切り替え操作のみであるため、委員会開催に伴う体制の変更はないとのこと。また、議場音声表示システムの導入については、令和2年の新庁舎整備に伴い市会運営委員会で検討を行い、令和3年2月に正式導入を決定した。初期費用として、アカウント発行費用が約22万円、機器等費用が約11万円、ランニングコストは1年間で約89万円で、障害の有無に関わらず、議会の進行が文字化されることで内容の理解が深まっている。課題としては、数行に1か所程度は誤変換が生じること。ただし、前後の文脈から内容を把握できるため、全体の流れを理解することはできる。そのほか、変換の精度を高めるために、人名等の辞書登録を行うほか、オーディオインターフェイスを構成に組み込み、極力雑音を排除している。



## 2 所見

本市においても、これから先を考えたとき、こうしたテクノロジーを駆使した新たな取組を議会改革の中で検討していかなければならないと感じた。高齢者、障がい者、学生、一般の方々が、現在の本市の課題や取り組んでいることなどを知りたいときに、いつでも知ることができる身近な市政につながる取組の一つとして、検討していくべきと考える。

そのほか、人口減少の中で労働力不足が様々な分野で大きな課題になってきているが、陳情、請願の処理においても先進的に課題解決に取り組むことで、市民の請願、陳情に込めた思いに対し、よりスピード感を持たせる対応の早さを生み出しているように感じられた。本市も同じような課題を抱えているので、こうした先進的な取組を行っている横浜市を注視し、取り入れられることや改革していく必要性の高い部分について、これから検討していくことに繋げていきたいと考える。



## ○神奈川県横須賀市

### 1-1 視察概要

#### (1) 横須賀市議会実行計画について

横須賀市議会実行計画（未来への羅針盤）は、横須賀市議会内に設置されている政策検討会議（政策検討会議運営要綱に基づいて活動）が行う横須賀市議会内での実行計画の策定、政策立案、政策の検証、政策への反映、改善を一体として策定されている。その要となる政策検討会議の設置の背景、会派の意見調整、そのための体制の概要などについて紹介する。

政策検討会議は、平成28年4月の大津市議会視察、7月の会津若松市議会での議会改革について研修を行う中で、当時の議長が議会の政策形成能力の強化を図るという強い思いを受けて、平成28年11月、議会運営委員会で政策検討会議・課題別検討会議の設置について議長から提案。平成28年12月、政策検討会議準備会を設置、平成29年2月まで4回の協議を経て、平成29年3月、政策検討会議を設置、通年議会の開催を盛り込んだ議会基本条例の改正案を全会一致で可決した。

政策検討会議は、政策の検討及び提案を積極的に行うために設置され、その目的は、議会全体で条例制定、政策提言などの政策立案を行い、課題を解決することと、4年間の議員の任期中に議会

が取り組むべき課題を協議し、計画的に取り組むこととしている。そのための組織体制として、政策検討会議の委員は、各会派から1名選出するとともに、正副委員長会派からさらに1名を選出して構成（会派に属さない議員のオブザーバー参加も認めている）。政策検討会議として、①1期4年間の実行計画の策定の協議、②実行計画の進捗の管理、③緊急課題の対応の協議、④政策形成サイクルに関する事項についての協議を行っている。また、課題ごとに会議の設置要綱を制定し、課題別検討会議で条例づくり等の政策提案が行われている。

実行計画の課題選定プロセスは、各会派、無会派議員からテーマを提案し、提案主旨について全会派の賛同を経て、議会全体で実行計画として取り組むことがふさわしいテーマであることを確認する。その後、課題別検討会議で専門的意見、市民意見の聴取、政策素案の策定、市民への報告、パブリックコメントの実施、条例議案提出または市長等へ政策提言を行う。この実行計画に基づいて、平成29年に横須賀市不良な生活環境の解消及び発生の防止を図るための条例を制定、平成30年に横須賀市がん克服条例を制定、令和2年に横須賀市歯及び口腔の健康づくり推進条例を制定、令和3年に横須賀市犯罪被害者等基本条例を制定、令和4年に横須賀市子どもの権利を守る条例を制定、令和5年に公共交通の在り方に関する政策の提言が行われている。

さらに、条例をつくるだけとせず、政策の検証を必須のものとして位置づけ、常任委員会で常任委員会の所管事務調査として執行部から報告を受け、その説明を聴取した後質疑を行い、必要に応じて委員会討議を行っている。その検証結果は、議長に報告するとともに議場において委員長報告を行っている。

この全体をまとめて、令和5年4月、横須賀市議会実行計画（未来への羅針盤2023）の最終報告をまとめ、現在、令和6年4月改定で横須賀市議会実行計画（未来への羅針盤2027）を発表している。

## （2）関東学院大学との包括的パートナーシップについて

平成28年2月に議会改革を行っていくにあたり、さらに政策形成能力を高めるため大学の持つ知を活用したい旨を、横須賀市近郊に位置し文系学部を擁する関東学院大学に相談。関東学院大学は平成29年4月に法学部に地方創生学科を創設し、地方公務員やNPO、地域企業などで活躍する人材を育成することを予定しており、大学側も議会との連携を希望した経緯があり、包括的パートナーシップにつながった。

平成28年2月、関東学院大学学長と議長が面談し、3月、その内容を議長が議会運営委員会に報告、各会派の意向を確認し、議会運営委員会での了承の後、3月31日、協定締結となった。これは神奈川県内初の市議会と大学との連携協定となり、（1）で詳述した議会全体で政策立案を積極的に行い、市政における課題解決に寄与する政策検討会議設置につながった。

協定では、議会と大学が相互の信頼関係に基づき、密接に連携、協力し、双方の持つ知的、人的及び物的な資源を有効活用することにより、地域社会における様々な政策課題への適切な対処と地域の発展、人材の育成、学術研究の向上などに寄与することを目的として、双方が協力する事項を確認している。

この包括的パートナーシップに基づいて、具体的には、①関東学院大学学長、副学長などからの議員研修会への講師派遣による研修会を平成28年から令和4年までに5回開催。②大学図書館が保有する蔵書や資料について、議員及び議会事務局職員の閲覧、貸し出しが可能。③関東学院大学の全学部共通地域志向科目であるKGUかながわ学を議員希望により聴講可能。④法学部学生の議

会、議会事務局へのインターンシップ受入れ。⑤法学部地域創生学科の授業科目、地域創生特論への議会からの出講。⑥高校・大学生を対象とした議会報告会への学生派遣を行っている。その具体的課題の推進のために大学側、議会側双方からの出席により、年1回程度、連携協力推進会議を開催し、新たに必要な取組の検討、既存の取組の見直しを行っている。

## 1-2 所見

議会の政策立案能力を高めるための先進的施策を学ぶ貴重な視察の機会であった。

横須賀市議会の政策検討会議を立ち上げるに至った背景を聞き取る中で、印象的に感じたことは、当時の議長が議会の政策立案能力、提案力を高めていく問題意識を強く持ち対応してきたことである。議会が市民生活に貢献するために何ができるか、他の議会の取組を検討する中で議会に諮り実行してきた経緯がよく分かった。この政策形成能力を高めていくために、横須賀市議会では議会事務局を議会局に格上げしたほか、法制面を強化するために執行部から人員を1人配置し、恒常的に議会の政策力をアップしていく上で重要な体制となっていると考える。

政策検討会議の設置以降、毎年会派から提案を受け、検討し、その努力を条例の制定につなげるところまで行っていること、その中でほぼ毎年、議会で条例を提案し制定していることに驚嘆する思いで受け止めるとともに、様々な会派がある中で会派間で議論し、意見の一致を図り、条例を練り上げていくまでまとめている議員の努力にも多く学ぶことがあると考える。

また、条例を制定すること自体が大変な努力と作業であるが、そこに甘んじることなく、さらに質の高い議会をつくっていくために、その条例の検証を位置づけ、常任委員会の所管事務調査で検証を行い、制定された条例が効果を発揮しているかどうか、必要ならば条例の改正も含めて日々検証していることも重要な観点であると感じた。

同時に、議員の仕事は、議会として行政の所管事務のチェック、市民の要望を行政に届け、提案も行っていく役割を持っている中で、これだけの条例提案を進めていく時間とエネルギーをどのように考えていくのか、当市議会としても視察で得た所見を踏まえ、検討していくことが必要であると考えます。

関東学院大学との包括的パートナーシップについても、政策検討会議を中心とした議会の政策提案能力の向上とリンクしており、パートナーシップ協定を結んだ時期と政策検討会議を設置した時期が一致していることにも表れていると考える。

議会局という法制面でも強化された提案力とともに、関東学院大学との協定に基づいて、執行部側の法制担当に頼らずに議員提案条例等について、中立・専門的見地からの意見聴取ができる先を常に確保していることも重要な点であると考えます。また、課題別検討会議で、助言を得るために有識者を招致しようとする場合、つてがなく一から探さなければならないというような悩みや課題は当市議会を含むどの市議会でも強弱はあれ持っていることであるが、関東学院大学が持つ学識者ネットワークで、大学の内外から適任者を探してもらえると状況が作られていることも先進的な取組であると感じる。

本市にも新潟大学をはじめ国際情報大学など文系学部を擁している状況であり、横須賀市議会に学び、同様な関係性をつくっていくことが検討課題であると感じた。



## 2-1 議会改革（横須賀市議会実行計画「未来への羅針盤」について）

### ・視察目的

横須賀市議会では、横須賀市議会実行計画～未来への羅針盤 2023～を策定し、議員任期4年間を通じ、計画的に政策立案と議会改革に取り組んでいる。議会改革分野において、多くの市議会が議会からの政策形成サイクルの確立を目指している中、PDCAサイクルの効果的な運用による政策立案とその検証体制を確立している横須賀市議会の先進的な取組を学ぶことにより、本市議会における今後の議会改革の参考とすることを目的とする。

### ・政策検討会議の概要

設置の目的 ①議会全体で政策立案（条例制定または政策提言）を行い課題解決に寄与する。

②議員の任期（4年間）で議会が取り組むべき課題を協議し、計画的に取り組む。

### 組織

	政策検討委員会	課題別検討委員会
会議の役割 (所掌事務)	①1期4年間の実行計画の策定を協議 ②実行計画の進捗を管理 ③緊急課題の対応について協議 ④政策形成サイクルに関する事項について協議	政策検討委員会において、条例づくり等の政策提案が行われ、全委員の賛同が得られた検討課題について、協議を行う
委員構成	各会派から1名選出+正副委員長 会派からさらに1名ずつ選出。任期は議員任期と同じ4年間。	課題ごとに会議の設置要綱を制定し、その中で規定。任期は概ね政策立案まで。

- ・取り組む課題とその検討期間について

期間 令和5年5月からの4年間。

政策立案 前期：スポーツの振興を通じたまちづくりの推進。

後期：令和7年度からの検討委開始に向け、令和6年度中に課題を選定する予定。

- ・基本的な考え方

(1) 政策立案であることを基本に、条例制定及び政策提案のいずれかを行うものとし、最終的な選択は詳細な検討を行う課題別検討委会議で協議する。

(2) 選定しなかった政策課題については、実行計画を進行管理する中で、本市を取り巻く社会情勢や行政課題などを踏まえ、必要に応じてその取扱いを再度検討する。

・選定基準 共通度、市民生活度（影響度）、市民満足度、緊急度、提案数の項目より評価選定を行うこととし、また政策等の検証については、PLAN（計画）⇒DO（実行）⇒Check（評価）⇒Action（改善）のサイクルを順次実施して検証を行っている。さらに市民の誰もが知りたい時に容易に情報を得ることができるよう、実行計画の見える化に努めている。

- ・所見

横須賀市議会実行計画～未来への羅針盤 2023～の策定により、4年間の長期的なビジョンを描き、議会全体でその達成に向けて、計画的に協議、調整や議員間での合意形成を図ることができており、理想的な政策形成サイクルが確立されていた。条例制定の過程では、より実態に則した条例となるよう、担当部局や専門家からの意見聴取、市民との意見交換、パブリックコメントなど外部の意見を取り入れるために様々な手法が用いられていた。また、条例を制定して終わりではなく、条例の効果検証や条例に基づく事業の実施状況などを検証する仕組みも作られており、PDCAサイクルの確立により、実効性の高い議員提案条例の制定につながっていると考える。長期計画の策定とスケジュール管理の徹底により、計画的な政策立案が実現している。

本市議会での導入を検討する場合には、実現可能な計画となるよう、事務負担とのバランスを考慮する必要があると感じた。これまで議員提案による政策条例の制定実績はなく、政策立案機能の弱さが課題の一つであると考え。4年間の長期計画を示し、進捗状況を公表しながら、確実に政策立案を実現することができれば、市議会活動の成果が見える化することができ、市民の興味、関心を高めることにもつながると考える。政策立案機能の強化に向けて、まずは何か一つ議会全体が共通認識をもって取り組める課題を抽出し、議員一丸となって政策立案を行う経験が必要であると感じた。

## 2-2 関東学院大学との包括的パートナーシップについて

- ・視察目的

議会改革を行っていくにあたり、さらに政策形成能力を高めるために大学の持つ知をどのように活用しているのかを学び、今後の参考にすることを目的とする。

- ・協定の目的

本協定は、市民を代表して市政に関する意思決定を行う横須賀市議会と知的財産を集積する関東学院大学が、相互の信頼関係に基づき、密接に連携及び協力し、かつ双方の持つ知的、人的及び物的な資源を有効活用することにより、地域社会における様々な政策課題への適正な対処と地域の発展、人材の育成、学術研究の向上等に寄与することとしている。

・協定に基づく取組の実施状況

以下の7つの取組等を実施している。

- ① 議員研修会等への講師派遣
- ② 大学図書館の議員及び議会局職員の利用
- ③ KGUかながわ学の聴講
- ④ 法学部学生のインターンシップの受入れ
- ⑤ 法学部地域創生学科の授業科目、地域創生特論への出講
- ⑥ 高校生、大学生を対象とした議会報告会への学生派遣
- ⑦ 連携協力推進会議の開催

・大学との連携協定締結のメリット

執行部側の法制担当に頼らず、議員提案条例等について、中立・専門的見地からの意見を聴取できる先を常に確保できる。→二元代表制

課題別検討会議で、助言を得るために有識者を招致しようとする場合、つてもなく一から探さずとも、関東学院大学が持つ学識者ネットワークで、大学の内外から適任者を探してもらえる。

・所見

この協定は、相互に協力し緊密な連携を行うことを通じ、社会課題の解決及び大学の教育・研究機能の向上を図り、横須賀のさらなる発展に寄与することを目的として締結された。取組の⑥は、高校生、大学生を対象とした議会報告会において、議員と高校生との意見交換の場で、自由闊達な議論を促すサポート役として、あるいは参加者として関東学院大学の学生を派遣してもらうもので、本市議会の主権者教育において大いに参考すべきものだと考える。大学生の募集にあたっては、成績上何かしらのインセンティブを与えることも効果的と考える。新年度に実験的にでも取り組んでみる価値は大きいと考える。

